

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成24年2月16日 (2012.2.16)

【公開番号】特開2011-140525(P2011-140525A)

【公開日】平成23年7月21日 (2011.7.21)

【年通号数】公開・登録公報2011-029

【出願番号】特願2011-93358(P2011-93358)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/198	(2006.01)
A 6 1 K	31/522	(2006.01)
A 6 1 K	47/16	(2006.01)
A 6 1 K	47/26	(2006.01)
A 6 1 K	47/02	(2006.01)
A 6 1 K	47/18	(2006.01)
A 6 1 K	47/14	(2006.01)
A 6 1 K	47/06	(2006.01)
A 6 1 K	47/10	(2006.01)
A 6 1 K	47/12	(2006.01)
A 6 1 K	47/42	(2006.01)
A 6 1 K	9/10	(2006.01)
A 6 1 P	15/10	(2006.01)
A 6 1 P	17/14	(2006.01)
A 6 1 P	17/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	19/08	(2006.01)
A 6 1 P	17/02	(2006.01)
A 6 1 P	31/12	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K	45/00
A 6 1 K	31/198
A 6 1 K	31/522
A 6 1 K	47/16
A 6 1 K	47/26
A 6 1 K	47/02
A 6 1 K	47/18
A 6 1 K	47/14
A 6 1 K	47/06
A 6 1 K	47/10
A 6 1 K	47/12
A 6 1 K	47/42
A 6 1 K	9/10
A 6 1 P	15/10
A 6 1 P	17/14
A 6 1 P	17/00
A 6 1 P	25/00
A 6 1 P	19/08
A 6 1 P	17/02

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 31/04

【手続補正書】

【提出日】平成23年12月14日(2011.12.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

跛行を有するかまたは跛行の危険がある被験体を処置するための組成物であって、
送達ビヒクル

を含み、該送達ビヒクルは、
一酸化窒素ドナーと、

少なくとも約 0.25 M であるイオン強度を有する不利な生物物理学的環境と
を含む、組成物。

【請求項 2】

前記被験体の脚部に投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記被験体の足部に投与されることを特徴とする、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 4】

神経障害を有するかまたは神経障害の危険を有する被験体を処置するための組成物であっ
て、

送達ビヒクル
を含み、該送達ビヒクルは、
一酸化窒素ドナーと、

少なくとも約 0.25 M であるイオン強度を有する不利な生物物理学的環境と
を含む、組成物。

【請求項 5】

前記送達ビヒクルがクリームである、請求項 1～4 のうちのいずれか 1 項に記載の組成物
。

【請求項 6】

前記一酸化窒素ドナーが、L-アルギニン、塩酸 L-アルギニン、および/または L-ア
ルギニンの誘導体である、請求項 1～5 のうちのいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 7】

前記一酸化窒素ドナー誘導体が L-アルギニンメチルエステルである、請求項 6 に記載の
組成物。

【請求項 8】

前記一酸化窒素ドナー誘導体が L-アルギニンブチルエステルである、請求項 6 に記載の
組成物。

【請求項 9】

前記一酸化窒素ドナーが約 0.05 重量%～約 25 重量%である濃度で存在する、請求項
1～8 のうちのいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 10】

前記不利な生物物理学的環境が、少なくとも約 1 M であるイオン強度を有する、請求項 1
～9 のうちのいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 11】

前記不利な生物物理学的環境が、塩化ナトリウム、塩化コリン、塩化マグネシウム、また

は塩化カルシウムのうちの１種以上を含む、請求項１～１０のうちのいずれか１項に記載の組成物。

【請求項１２】

前記不利な生物物理学的環境が尿素を含む、請求項１～１１のうちのいずれか１項に記載の組成物。

【請求項１３】

前記不利な生物物理学的環境が糖質を含む、請求項１～１２のうちのいずれか１項に記載の組成物。

【請求項１４】

前記不利な生物物理学的環境が、少なくとも約１０００であるオクタノール - 水分配係数を有する成分を含む、請求項１～１３のうちのいずれか１項に記載の組成物。

【請求項１５】

前記オクタノール - 水分配係数が約 10^{-3} 未満である、請求項１４に記載の組成物。

【請求項１６】

前記不利な生物物理学的環境が、塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化コリン、塩化マグネシウム、および塩化カルシウムのうちの１種以上を含む、請求項１～１５のうちのいずれか１項に記載の組成物。

【請求項１７】

前記不利な生物物理学的環境が、少なくとも約９であるpHを有する、請求項１～１６のうちのいずれか１項に記載の組成物。

【請求項１８】

前記不利な生物物理学的環境が、約５未満であるpHを有する、請求項１～１６のうちのいずれか１項に記載の組成物。

【請求項１９】

前記pHが約３～約１１である、請求項１～１６のうちのいずれか１項に記載の組成物。

【請求項２０】

前記一酸化窒素ドナーが、約０．０５重量％～約２５重量％である濃度を有する、請求項１～１９のうちのいずれか１項に記載の組成物。

【請求項２１】

前記送達ビヒクルが、水、鉱油、グリセリルステアレート、スクアレン、プロピレングリコールステアレート、麦芽油、ステアリン酸グリセリル、ミリスチン酸イソプロピル、ステアリン酸ステリル、ポリソルベート６０、プロピレングリコール、オレイン酸、酢酸トコフェロール、コラーゲン、ステアリン酸ソルビタン、ビタミンA、ビタミンD、トリエタノールアミン、メチルパラベン、アロエベラ抽出物、イミダゾリジニル尿素、またはプロピルパラベンのうちの１種以上をさらに含む、請求項１～２０のうちのいずれか１項に記載の組成物。

【請求項２２】

前記送達ビヒクルがNSAIDをさらに含む、請求項１～２１に記載の組成物。

【請求項２３】

前記NSAIDがイブプロフェンを含む、請求項２２に記載の組成物。

【請求項２４】

前記送達ビヒクルが、ナプロキセン、セレコキシブ、レフェコキシブ、モルヒネ、プロボキシフェン、オキシコドン、またはヒドロコドンのうちの１種以上をさらに含む、請求項１～２３のうちのいずれか１項に記載の組成物。